

令和4年度第1回宮代町立小・中学校一貫教育推進委員会の
会議録

1 日時・場所

令和4年6月16日(水) 10:00～11:20

役場庁舎202会議室

2 出席者

審議会委員：16名出席

上田悟委員長、斎藤勉副委員長、木村委員、高野委員、塚越委員、小山委員、山口委員、谷委員、鈴木委員、長井委員、大能委員、杉村委員、金子委員、石井委員、土淵委員、大場委員

事務局：中村教育長

教育推進課：竹内学校管理幹兼副課長

3 開会

4 挨拶

教育長から挨拶

5 任命書手交（今年度委員の変更があった者）

6 自己紹介

7 委員長挨拶

上田悟委員長から挨拶

9 議事

杉村委員：私も会長になってから3回参加させていただいて、わからないところから、各校の取組や自分が少し携わることによって、イメージがついてきて、須賀小・須賀中は物理的にもお隣で強みを生かそうということで、細かい取組をされていると思いました。最近思うのですが、中学生ぐらいになると少し心と気持ちの部分のバランスが崩れ難しい時期があって、挨拶一つとっても難しいと思うような年頃だと思うのですが、宮代の須賀の校区に限らず、中学生が小学生に対して挨拶をする姿を見ますし、私も歩いていて挨拶をするのですが、無視しないです。挨拶をしてくれます。小学校から、中学校へ連動して取組が根付いて、優しい子がこの町には育っていると感じます。その中で、校区ごとに競い合う、うちはこれで頑張ろうということがすごく年を重ねるごとに感じられます。ここで9年間お世話になることも保護者からすると一つの大きなメリットというか、すごくいい土地で子育てしていると改めて感じて、他の保護者にも改めてこうなっていることを伝えたいと思いました。知らないでいる保護者もいっぱいいるのではないかと思い、うまく伝わるといいなと思っています。僕だけではもったいないので。

大場委員：初めて参加させていただいて、会長に「小中学校一貫教育って、どういうものですか。」と聞いたら、「とても勉強になるよ。」「ぜひ聞いといて。」と言ってくれました。実際に3校のお話を聞かせていただきまして、一保護者として全く、こういうことをやっていたんだ、ああいうことをやっていたんだということをわからなく、新しい発見がいっぱいありまして、今日、百間小の杉村会長もおっしゃっていましたが、本当にいろいろな保護者の方にこういう取組をやっていることを伝えていただけたらよいと思いました。小学校1年生から中学校3年生の9年間は、目まぐるしく心も体も成長する

ので、小学校から中学校ってこういう感じなんだよということが一人一人保護者の方も理解できたらいいなと素人なりにそう思いました。

土淵委員：個人的になのですが、私は、町内音楽会が大好きと申しますか、子供が小さいときに出る度に参加させていただいて、よく聞きに行ったのですが、コロナ禍ということもあってなかなかできなくて、寂しく思っています。何が楽しみかと言いますと、須賀中の3部合唱・4部合唱がとても素晴らしくて、そうやってしまうと、他の出ているお子さんには申し訳ないのですが、特に上手なので、好きで、須賀小中学校だけでなく、他の皆さんにも聞いていただきたいと思うくらい素晴らしいものなので、コロナ禍で難しいかもしれませんが、また、再開してもらえたら嬉しいなと思っています。学校のプランも小学校と中学校が関わるという経験は、私が小学校の頃にはなかったものなのです。いきなり、中学校へ行って部活へ参加したり、わかっていないことがいっぱいある中、うちの子供が小学生にもいるのですが、陸上競技会のための練習という形で陸上部の子が来て、教えてくれたということを娘から聞きました。知らないお兄ちゃんとかお姉ちゃんとかから教わっている話を聞くと、うちは、息子も陸上部なので、違う種目を選んだということもありますが、兄からではない別の男の子に教えてもらったって言って、兄弟とはまた違う関わり方を話を聞くと、知らない子でも優しく接してくれる上級生がいるということがわかりました。今後、子供が大人になっていく中でまた、自分の娘も成長し、教える側の立場になるということも、また少しずつ学んでいけるという点で素晴らしい取組であると思います。

上田委員長：校長先生方に伺います。今年は町内の音楽会は実施は決まっていますか。

校長先生方：実施は難しいと考えています。

金子委員：今、会長さん方からお話がありましたけれども、土淵さんがおっしゃった、町内で、須賀中の3部合唱があるということに恥ずかしながら、初めて知りましたが、中学校が出ているよ、小学校が出るよなんていうのも情報が手元になかったということもありましたので、そういう情報がより浸透していくように、情報発信していただけたらなというのがあります。それと、小中一貫ということで、縦の中学校、小学校ということで繋がりのお話をしているのですけれども、小学校同士であるとか、中学校同士、生徒同士、児童同士という横の連携であるとか、お互いのいろいろな披露の場というのも小学校・中学校共にあると……。コロナのせいではあるのですけれども、小学校でいえば町内陸上大会であったり、文化祭で、何かこう、美術品はよく、進修館の方に展示していただいているのがあるのですけれども、硬筆の町内展であったり、書初めの町内展であったり、そういう他校のいいものを見るという刺激を受ける場を提供していただけたらありがたいとここ数年特に思っています。なので、町内陸上大会もここ数年全くやっていないので、記録会は確保されていると思うのですけれども、別のところで記録というのは比べにくいということもあるので、やはり、一堂に会して体で感じてどこどこ小学校の何とか君速かったねとか、すごかったねというのが、また、中学校に上がった時に、あの人に負けないように中学校の陸上で頑張ろうとか、また、別のスポーツだとしてもそういう交流があったりするとそれぞれの場で輝けると思うので、そういう子たちの活躍の場をスポットライトを当てられるような機会があると大変ありがたいと常々思っていますのでよろしくお願いします。

石井委員：私も初めてこの会に参加させていただいたのですが、私自身も須賀小・中の卒業生で、20年近く経ちます。自分自身の頃はやはり、中学校ってどういうことをやるのかなとったりして、中学校の先生って怖いんだろうなとったり、入ってみて正直、怖い方もいっぱいいらっしたのですけれども、御本人の目の前で言うのも言いづらいのですが。その頃にそういうことがあれば、地域に

住んでいる先輩からは聞いたりとかということはありませんでしたが、実際に中学校の先生に授業を教えていただいたりですとか、逆に中学校に上がってから小学校の先生が見に来てくださるという交流があることで、中1ギャップだけではないと思うのですけれども、地域として、もっともっと、こう、学校中心に発展していくのかなとすごい感じました。うちも3人子供がいて、もう高校生と中学生になっているので、小学校との関りというのはないのですけれども、高校へ行くと本当に何も関わりがないので、特にコロナになって、必ず高校に行くということもなく、子供も話さなくなるので、余計に関りというのはないのですけれども、中学生の話の話を聞いていると、学校が楽しいといつも言っているの、他の地域よりも小中一貫の取組を盛んにされている町だと思えますので、更に発展していけばいいかなと思います。

大能委員：私も今年からで初めて参加させていただいたのですけれども、10年前から宮代町にいますけれども、他県の出身でして、私の子供の時には全くこういう交流はなく、中学校に上がってから小学校へ行く、中学校へ行ってから小学校の先生や生徒が来てくれるなどということは全くありませんでした。今、須賀小・中は、割と特殊なことだと思うのですけれども、校舎が隣合っていて、体育館も隣合っていてPTAとかで小学校へ行くと、中学生が小学校の敷地内を歩いて体育館に行ったりとかするんです。その時に小学校の生徒と中学校の生徒が挨拶を交わしたりとかそのようなことで、自然と小中学校の交流ができていたり、すごくいいなと思っています。他の小中学校の関りも今日初めてわかって、やっぱりいろいろやられているんだなと感心しました。1点思うことは、私も今年、PTAの副会長をしているのですけれども、やっていると今までは通常のことではなかったもので、コロナ禍で中止、できるときはやるみたいな感じでやってきていたとは思っているのですけれども、もう、この状態がずっと続くのだろうなということは皆さん薄々気付いているのだろうなと思うので、やり方を変えて続けていくというところに来ているのかなと思っています。オンラインを活用して説明したりですとか、あるいはやり方を新しくして徐々に試していけないのかなと思いました。

木村委員：学校のいろいろな活動の発表、ありがとうございます。私も、さっき言ったように、3人の子育てをここの笠小と百中でやらせていただいて、百中と笠小の交流の中では、子供が金管楽器を百中に教わりに行くことで、校舎の中とか、先生の様子を直に感じられたり、中学生が教えてくれることで詳しく教えてもらったり、自信になったりしたということを知ったり、中学生になるとサマースクールで笠小に行くと、懐かしさもあるし、教えることで自分自身も自信になったり、いい体験をこの小中一貫の取組の中で経験させていただいて、宮代で3人の子育てできてすごい幸せだと思いました。今回コロナもあって、GIGAスクール構想が一気に進んだと思うのですけれども、先ほど須賀中の活用みたいに説明会をICTを活用してやったり、子供が動画を作ったのを配信したりしたのは、すごい良い取組だと思っていて、直に会えることもいいのですけれども、コロナの中で制限がかかったり、距離的に離れている学校同士とかで、もっと積極的にせっきくタブレットとかいろいろな環境が整備されたのだから活用した方がいいなとすごく思っています。先ほど金子さんとかも小学校同士、中学校同士の横のつながりももっと密にした方がいいのではないかなというのでは、そういうICTを活用して、例えば同じテーマを各中学校のところでZOOMとかそういうのを通して討論会をやったりとか、発表会をやったりとか移動の制約をなくしてどんどん活用できたらいいのではないかなと思いました。あとは、役場からの資料の中の研究課題に小学校における教科担任制とかがこれからどんどん始まっていて、職員間の相互交流という中で教科担任制を中学校の先生とどうやって協力しながら推し進めていくかとか、そういうも

のも今後の小中一貫の教育の中での取組の一つの課題として積極的に進めていただければいいなと思いました。最後に、部活動の改革がどんどん地域への移行とかも含めて進んでいく、国が3か年で進んでいくというのを最近新聞で見たのですけれども、先ほどの陸上とかでも陸上部の子が小学校に来て教えてもらおうと勉強になったり、中1ギャップを埋める上での交流になったりという活用がされているのですけれども、小学校でのスポ少とか、小学校の中でのクラブの中に運動部と運動のクラブがあると思うのですけれども、そういうのとか、あと、中学校の部活あとは指導者側も地域の指導者とか、そういう経験者、OB、OG とかをどのように活用していくのか、そこの運動への指導も小中のつながりをうまくもって3か年で国の制度というか方向性を、宮代独自のネットワークが作れるとすごくいいのではないかと思います。各小中学校が積極的に小中一貫を進めていただいて、本当に宮代で楽しく子育てができてよかったです。ありがとうございました。

齋藤副委員：各学校の取組を拝見させていただいて、私は、宮代町の住人として、子供たちの育成に関して校長先生も PTA 会長さんも御努力してくださっていることに感謝いたしたいと思っています。取組の中で、私は3つ興味のあることがあるんです。その一つが、学びの連続性ということで、各学校、教育課程、学習指導要領をいろいろな方法ですり合わせていくと、多分、重複している部分があるんですよね。その重複している部分をいかに少なくするかによって、教育時間を保証できると私は考えているのですけれども、その辺の取組というものに非常に興味があります。また、これに伴って、公の学力検査をやっていますよね。これの検証というのは、一貫の中でどういう効果があったのか、これ、経年度で見ていると思うんです。個人の経年度で、そしてこれだけの学力の伸びがあったという形で学校の方で把握されていると思うのですけれども、顕著に何かこういうものがあったというものがあればお話いただくとありがたいなと思っています。それから、2点目なんですけれども、この「人の交流」という形で子供同士の交流というのがあると思うんです。子供同士の交流、いろいろな交流が入っておりまして、学校間の交流についてすごくよくやっているなという思いをもって拝聴させていただきました。その中で、私が感じたことは、中学生が小学生の面倒を見る、で、小学生は何するの、小学生を面倒見たことによって何が中学生にプラスになっていくのか、何か一方的なような気がするんですね。お互いに Win の関係を保つためには、お互いに何かがある、必ず何かを教えるというような取り組みであるんですよね。先ほど、部活動を教える、サマースクールをやる中学生の方として例えば顕著なこういうことはプラスになっているということに関して、何か検証が欲しいなという感覚をもって聞いていました。それから、3点目も同じ「人の交流」の中で、教職員の交流、これは多分一番大変だと思っています。小学校と中学校って非常に学校文化が違うんです。中に入ってみるとわかるんですけれども、どのくらい小学校と中学校が違うのかという思いがあります。指導法の違いというのは、かなりあると思います。例えば、子供の呼び方、生徒指導の中でよく課題として出てくるんですけれども、どんなのがいいんですかね、何々さんという形であるんですかね。最近話題になっているのが、子供同士もあだ名で呼んではいけない。公の場ではあだ名で呼んではいけないというような話が出ていますよね。そういう取組や何かに関して、小中の中の連携でうまく生徒指導をやっていくための課題があるのかなと思っています。最後に全体を通してなんですけれども、小学校と中学校にギャップがあっいけないことと、やっぱり何かあってもいいのかなという部分もあるんです。個人的には。実は、小学生が中学校に入ってくる時に期待すること、これは英語と部活でした。英語を一生懸命勉強して、その中で外国人と話せるようになりたい、部活動でこういうふうに部活動を頑張りたい、そこに新鮮さがあって一つの

出発点のモチベーションの高さ、中学校になったらこうやるんだというモチベーションを高めるためのものというものが多分あったと思うんですよ。みんな平坦にして果たして、私は個人的にはいいのかなと思うんですよね。平坦にすることはいいことなんですけども。以前あったモチベーションの高さ、中学校へ行ったらこういうふうにしたい、中学生だから、例えば、自分で歯磨きをして全部着ていく、そこにうまい何か区切りというのですかね、そういうものがあって、3月の31日まで小学生だった子が4月の1日から急に何かこうステップアップして、いろんな活動ができるようになる、その転機というところの捉え方があると思うのですけれども、そういう捉え方を何かうまくいい面に活用する、そんな取組を私は個人的には必要かなという印象をもって勝手な意見なんですけれども、そんな思いをもって先生方の発表を聞かせていただきました。どうもありがとうございます。

上田委員長：最後に私の方からはですね、もう、出尽くしていますので、感想で終わりにしたいと思います。まずですね、先ほど、須賀小の教頭さんとの話し合いを聞いて嬉しくなったと言ったのですが、わくわくして聞いていました。その通り、わくわくするような内容だったなど、各学校のプランも名前を付けて、すごくイメージの大きなものだと思います。ゆずり葉プラとかMプランとか、全力プランとかそれだけで、一緒にやっているんだなということがわかるのではないのでしょうか。これができないというのが、先ほどの他の地区の校長さんの話だと私は思いました。それとですね、やはり基本は齋藤さんが言ったと思いますが、教育の学びの連続性ですよ。教育課程が小6から中3まで、それをいろんな形で取り組んでいることがすごく良かったと思います。それから、中1ギャップの件なんですけれども、これは私の仕事の関係からお話しますが、いじめ・不登校対策のスクールソーシャルワーカーをやっています。差し支えない程度に、例えば、小学校6年生でそういう子がいたら、中学校の方には情報を提供しています。また、中学に行ったとき、1年になってどうなったか、小学校へ戻すような情報だけは出しております。差し支えないものです。差し支えあるものは出しません。「このように変わってきているですよ。」「うまく入って行けたですよ。」とそういうことを話すのも小中一貫教育の一つだなというふうに思ってお話しています。あとはですね、齋藤先生が言っていました、中学の先生が小学校で授業をやるということ、とってもいいことですね。ある学校で、宮代ではありませんよ、「損するよな。」って言った人がいるんです。「何で私たちだけ小学校へ行って、小学校の先生は、何で中学校で授業をやらないんだ。」って。それもわかるけれども、できないんだと思いますね。免許の関係とかで、相手が中学生だと。小学校はオールマイティーですからね。それを専門的にというと。難しいんだけど、音楽だとかいろんなことで交流をやっているということで私はいいのかなと思います。それから、個人的な話で、私も一貫教育に協力していることだけ、事例だけお話しします。須賀小・須賀中の特別支援学級の子たちが、私の畑の玉ねぎとじゃがいもと大根掘りに来ます。6月1日には玉ねぎ、6月22日にはじゃがいもを掘りに来ます。12月には大根を掘りに来るんですけれど、6月1日には15、6名と校長先生と担任の先生が来て、玉ねぎを掘りましたが、何と、玉ねぎ、こんな大玉ね、100個持って行きました。「ここからここまで。」と言っても、知らないうちに全部違うところ掘ってしまうんですね。それを返せなんて言えませんから。一輪車で2台、結局4台分掘って行きました。それが一つのつながりなのかなと。去年は小中の交流のお祭りをやったようなのですが、そういう広がりがあるのかなと思いました。じゃがいもをたくさんとってもらいたいのですが、枠を決めておこうと思いますが、ただ、違う畝もとってしまうのだろうと期待しています。本当に最後になりますが、これは私が現職の時に東部教育事務所の主任社会教育主事さんの輪島先生から教わったことで、肝に銘じた言葉なん

ですけれども、「連携と融合はどう違うか」という言葉で、「連携はA子とB子がいると、A子が主でB子が従になるという関係がある、融合というのは溶け合うからフィフティー・フィフティーになる。一貫教育にすごく近い言葉だ。ただ、A子が主でB子が従になった活動や、逆にB子が主でA子が従になっている活動も必要なんだよ、何でも一緒ではないんだ。」ということ所以说ったので、すごく肝に銘じて学校経営に融合という言葉を使わせていただきました。宮代の場合はそのような状況で進んでいるのかなと思います。校長先生方に御礼申し上げます。

10 その他

事務連絡

11 閉会